

オープン市場短信 (2020年10月)

2020.10.9

◆ 9月のCP市場動向

9月末のCP市場残高は、22兆5,813億円と一時的な期末要因で前月比大幅に減少した(△3兆581億円)が、前年同月比では43カ月連続の増加(+5兆256億円)となった。発行残高は、新規発行のペースは鈍化していたものの、月中は25兆円台後半から前半と高水準で推移していた。業態別残高では、一般事業法人が8兆9,788億円(前月比△2兆6,924億円)、その他金融9兆3,957億円(同△1兆75億円)と減少した。一方、金融機関2兆5,358億円(同+3,438億円)、ABC P1兆6,710億円(同+2,980億円)とそれぞれと増加した。発行レートは、オペ目的もあってディーラーの購入ニーズが強く、多くの銘柄でマイナス圏内での出合いが見られた。

【新発3M物の発行レート】

最上位銘柄(a-1+格) 0.000%割れ 一般事業法人(a-1格) 0.000%割れ～0.000% その他金融銘柄(a-1格) 0.000%割れ～0.100%

【業態別残高内訳】

(単位：億円)

業 態	9月末残高	8月末残高	増 減
一般事業法人	89,788	116,712	-26,924
その他金融	93,957	104,032	-10,075
金融機関	25,358	21,920	3,438
政府系金融	0	0	0
銀行等	4,455	5,170	-715
証券	20,903	16,750	4,153
ABC P	16,710	13,730	2,980
計	225,813	256,394	-30,581

(注：買入消却分含む)

【格付け別の発行レート】

格 付	1カ月	2カ月	3カ月
a-1+ (一般事業法人)	—— ～ ——	-0.025% ～ 0.000%	-0.030% ～ 0.000%
a-1 (一般事業法人)	-0.035% ～ 0.025%	-0.028% ～ 0.010%	-0.031% ～ 0.000%
a-1+ (リース銘柄)	—— ～ ——	—— ～ ——	-0.0051% ～ 0.028%
a-1 (リース銘柄)	—— ～ ——	0.000% ～ 0.097%	-0.0006% ～ 0.100%
a-2	0.026% ～ ケ0.50%	—— ～ ケ0.75%	0.0490% ～ ケ1.00%

《CPオペ》

CP等買入オペは、8月の2回（合計：1兆2,000億円）から3回（合計：1兆8,000億円）と増額された。決算期末で新規発行が少ない中、ディーラーの売却ニーズは後退し、按分レートは3日△0.042%・15日△0.058%と低下。しかしながら、25日のオペは保有玉の入替や残存期間の短い玉の売却ニーズが影響したためか、按分レートは△0.034%に上昇した。

〈月末オペ残高：4兆2,569億円〉

【日銀CP等買入れオペ実績】

(単位：億円)

実施日	実行日	オファー金額	応札額	落札額	按分・全取	平均落札	按分比率
9月3日	9月5日	6,000	10,112	5,992	-0.042%	-0.018%	9.2%
9月15日	9月17日	6,000	8,906	6,000	-0.058%	-0.039%	11.1%
9月25日	9月29日	6,000	9,602	6,000	-0.034%	-0.027%	73.1%

《ABC P》

ABC Pは、期末要因から1兆6,710億円と前月比+2,980億円増加し、前年同月比では+3,499億円の増加となった。

《短期社債登録状況》

証券保管振替機構によると、9月末時点における発行登録企業数は、1社増2社減で、531社となった。新規登録：アルコニックス 登録抹消：首都圏リース、ノバルティスホールディングスジャパン。

«C P 現先市場»

現先 (S/N) レートは運用ニーズ変わらず、マイナス~0 %近辺での出会いであった。

◆ 10月のC P市場動向

10月のC P発行市場は、四半期末で残高調整をした企業（商社・鉄鋼・建設等）が発行を再開し、期落ち（約2兆2,000億円）程度の発行が見込まれる。現在、発行残高の増加ペースはやや鈍化しており、月中残高は先月に比べ減少し23兆円台半ばに止まっている。上半期、企業はコロナ禍による先行き不透明感と良好な発行環境により、予防的なC Pによる資金調達を進めていた。期明け以降もその動きが継続すると思われるが、やや落ち着いた動きとなっている。その為、月末残高は前年（19兆1,806億円）を上回るものの、24兆円台後半を予想する。発行レートは、先月同様玉不足感が強い為、銘柄・期間によってはマイナスレートの深掘りが進むと思われる。一般事業法人（a-1格付）の銘柄でマイナス~0%近辺、その他金融・リースの銘柄（同格付）はマイナス~0.10 %近辺でのワイドレンジを予想する。

«C P オペ»

C P等買入オペは、13日・27日のそれぞれ6,000億円のオファー予定で合計1兆2,000億円となっている。コロナ禍での予防的な資金調達がやや後退していることもあって発行の減少が見込まれる為、ディーラーの売却ニーズは後退すると思われる。今月のオペレートは、先月に比べオファー額は減少するものの低下地合いを予想する。

«C P 現先市場»

C P現先レートは、変わらず 0%近辺での出会いを予想する。

* 参考資料 (出所：証券保管振替機構)

【9月末発行残高 上位10社】

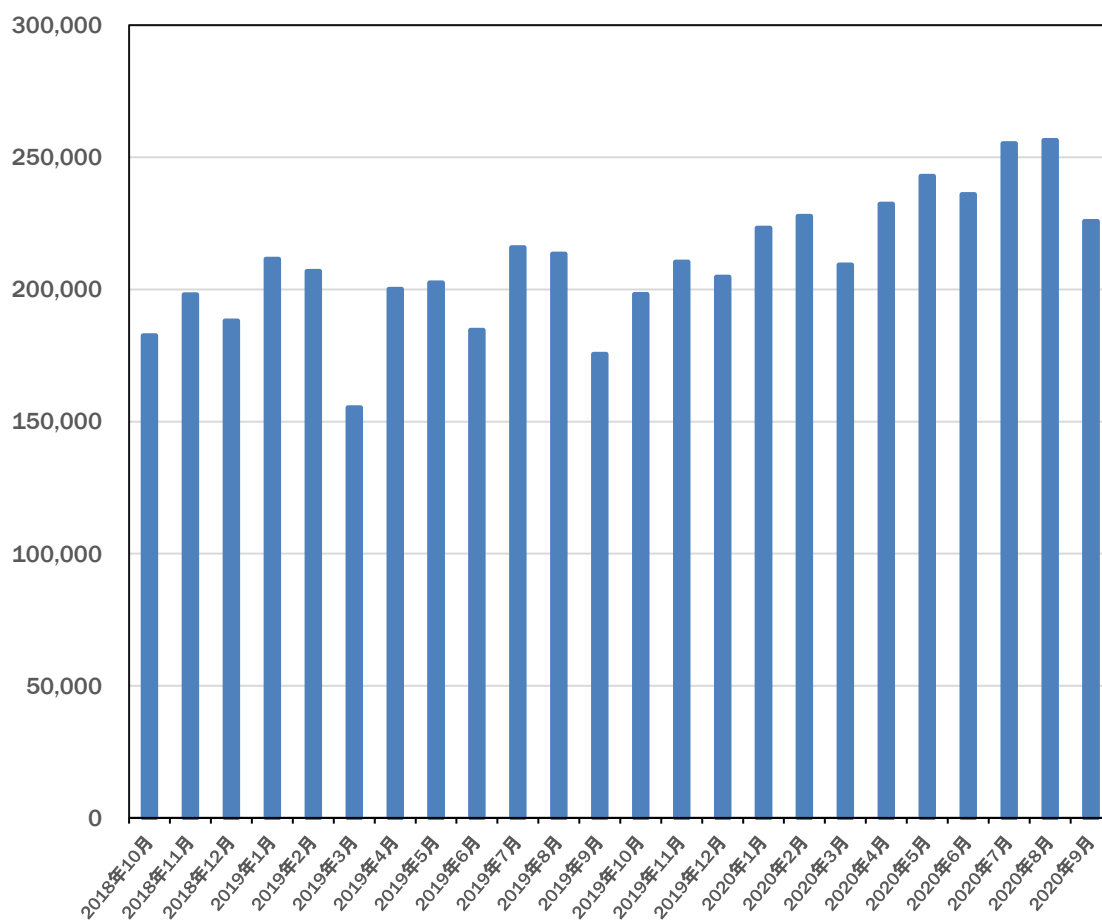
(単位：億円)

	発行企業名	9月末残高	8月末残高
1	三井住友ファイナンス&リース株式会社	9,409	9,609
2	NTTファイナンス株式会社	8,660	15,200
3	コンチェルト・レシーバブルズ・コーポレーション	6,459	5,263
4	みずほリース株式会社	5,880	5,496
5	三菱重工業株式会社	5,410	5,070
6	S M B C日興証券株式会社	5,310	4,000
7	東日本旅客鉄道株式会社	5,000	5,000
8	株式会社クレディセゾン	4,790	4,880
9	株式会社ジャックス	4,695	4,700
10	三菱U F Jリース株式会社	4,670	5,252

【短期社債市場残高】

(2018年10月～2020年9月)

(単位：億円)



本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。

上田八木短資株式会社

登録金融機関 近畿財務局長（登金）第 243 号

大阪本社 〒 541-0043 大阪府大阪市中央区高麗橋 2 丁目 4 番 2 号

東京本社 〒 103-0022 東京都中央区日本橋室町 1 丁目 2 番 3 号

加入協会 日本証券業協会